



SMFは今年も飛び跳ねます。

## 巨大コタツで本気アートの熱い議論 SMFラウンドテーブル 2010 速報

暮れも近づいた12月18日、埼玉県立近代美術館の講堂には、一風変わった熱気が立ちこめていました。演壇上も含めて会場には5台のお手製の巨大コタツが置かれ、色とりどりの古びた毛布やくたびれた掛け布団がにぎやかでざっくばらん雰囲気を増幅しています。飯場のメリークリスマスといった感じで、お茶碗を叩く音でも聞こえてきそう。何かがはじまりそうな雰囲気この会場設営は、企画協力のキタミン・ラボ舎さんの発案です。

このコタツリーグに集ったのは、埼玉県を中心にユニークで意欲的なアート活動を展開するおよそ50名の多士済々のメンバー。午前中には、都合9件の活動事例紹介、午後はwahの南川憲二さん、KOSUGEL-16の土谷享さん、port Bの高山明さんの3名のアーティストから、それぞれの方法論やプロ

ジェクトについて話を聴き、その後、3班に分かれてグループミーティングを行うという流れで、刺激に富んだ、密度の濃い、また本気の話があちこちで交わされる、貴重な機会となりました。

いずれも中身の濃かった午前の発表からあえて一例を挙げると「ボクが南浦和アートセンターです。…南浦和は都内在住者からは遠いイメージがあり、ここを拠点に人を呼ぶイベントを行うより、ボクの部屋をネット放送局にして活動していこうと思い、その一環としてブログを作りました。その記事のうち一つはただみんなで家を掃除しただけの「イベント」の記録なのですが(サイトマックリン大作戦)のように、名前を付けて、記事を書き、写真を載せるようにして記録を残すと、後から振り返ると、中身が何であれ「何か活動をやっている」という感覚に陥ってしまう、さらにそれは誰でもアクセスできる状態で一般公開されているブログです。新聞、テレビなど既存のメディアの権威がどんどん弱くなっていると言われる中で、このような感覚で結構面白くて、色々考えさせられる事があると思います(南浦和アートセンター代表・安野太郎さん)といった具合です。

3人のアーティストが壇上のコタツに潜り込んで、午後の部もますます白熱です。もっともお三方ともアートやアーティストという呼称に余りこだわりはなく、制度化された既存のアートの枠組みというのをいかに脱白させるかというようなプロジェクトを展開してきたという点では共通しています。もちろん美術館に対しても「美術館で見るのは好きだけど、自分がやるところじゃない」とか「たかが美術館ができて50年ですから」と、遠慮会釈なしです。

《川の上でゴルフをする》とか《地面の中の家がある》といった突拍子もないアイデアを実際にやってみて、「やってみてから何が面白いかを感じていく」という南川さんからwahのダイナミックな行動力に笑顔で感動。「ご近所との持ちつ持たれつとの関係が好き!」、アートの分野では作る人しか育ててこなかった。見る人、支える人を育てることも必要で、逆にまた見る人が作る人を育てることもつながる」という土谷さん。彼の《巨大紙相撲》は、そのような仕掛けと構造を持った複合ワークショップでもあります。《個室都市 東京》、《完全避難マニュアル 東京版》など日常空間と芸術空間を攪拌する過激な作品を展開する高山さんは「お客さん自身が、パフォーマーであり、観察者であり、ジャーナリストや報告者にもなる仕組み作りを考えてやっています」と語る。

この3名をそれぞれ中心としたグループミーティングも白熱しました。以下、アンケートを含め印象に残った言葉の一部を拾ってみます。「アートはまちの中に新しいレジェンドを作っていくんじゃないか。その土地にしかないものを引き出して、その土地の人たちと何かを作っていく中で、最初からそこにあった既成の概念を打ち壊して新しい概念を作っていく。それが次に続く伝統になっていくというような、何かを作れる力がアートにはあるんじゃないか。」「ただ置いておくだけではアートにならない。本気でお節介をする人が必要。」「まちづくりのためとか地域や市民のためというのは胡散臭い。それに関わって自分がどう変わったかが基準であるように思う。」「美術館を使いこなす時代が来ている。アートにはシステムを再構築する力がある。」「このままこのトークをラジオ番組にするというアイデアを出して、月一回くらいみんなで集まって「表現の未来」について語り合いたいな。」「顔の見えるところで深い話できた」…朝10時半に始まり、どっぷり暮れてもまだまだ熱いSMFラウンドテーブル2010は、舞台を交流会に移し夜更けまで続いたのです。

(文責：M.N. / 進行・取材協力 Y.A.・M.S.・S.N.・S.Y.・S.A.・T.S.・A.O.)



熱気?につつまれた会場



左から南川さん、土谷さん、高山さん、進行の五十殿さん

## S A I T A M A 連携美術館 New Vision Saitama 4 静観するイメージ 埼玉県立近代美術館

2011年1月29日(土)3月21日(日)に埼玉県立近代美術館(以下MOMAS)で「ニューヴィジョン・サイトマ4」(以下NV4)が開催されます。  
この展覧会は、MOMASで唯一シリーズ展開している企画展で今回はその4回目。前回と同様に7人のアーティストが今押しのアーティストを1人ずつ紹介する形で構成されています。選定基準は埼玉県にゆかりがあるという点のみ。様々な世代や作風のアーティストが集まりました。

副題にある「静観」という言葉には、「物事を静かに見守る/物事の奥に隠された本質的なものを見極める」という意味がありますが、選ばれた7人のアーティストの制作の姿勢から自然に立ち上がりてきたものだからか。移りやすい現代アートの流行から一定の距離を置き、より本質的なものを求めて自らの揺るぎない制作を続けてきた、そんな共通点のある方が揃ったのだとそうです。それはまるで、MOMAS自体のあり方にも通じているかの様に感じられます。

New Vision Saitama 4  
The Museum of Modern Art, Saitama  
2011.1.29 sat - 3.21 mon  
HIGUCHI Kyoichi  
AKIMOTO Takanori  
ICHIKAWA Yui  
SHIOZAKI Yumiko  
EIMIZU Aki  
OGINO Ryosuke  
MACHIDA Yoshiko

## ぎゅっとなつまったSMFのホームページ、一度のぞいてみませんか?

いつも SMF PRESS をご覧いただきありがとうございます。もし輪転機刷りの紙媒体でお読みでしたら、一度、SMF のホームページ <http://www.artplatform.jp> をのぞいてみてください。トップページ右下の SMF PRESS のバナーから鮮やかなカラー版をご覧いただけます。ご興味があれば創刊号からカラーで見たいだけでもできますよ。

さて、このホームページには、SMF に関する情報がたくさん詰まっています。2008 年の「アート巻戻フェスタ」の記録集『風の記憶』の抜粋や、2009 年の「SMF アートのわっ!」の記録集『風の行方』の全員も PDF でご覧いただけます。またこれまでの事業で制作した浦和、川口、川越の「アートマップ」も一見の価値があります。

今年度からは「LINKS (つながる)」



や「アートバンク」のコーナーが新設されました。トップページから左段の「SMF について」をクリックしていただくと、上段に各種のタブが付いた SMF の説明ページが出ますので、そこからタブを選択してご覧ください。

「LINKS」のコーナーでは現在、県内で意欲的な活動を展開するアート系のグループやアーティストベース、ギャラリーなど、約 30 件がリストアップされ、クリックすれば各々のホームページやブログから、それぞれの多彩な活動の情報を確認することができます。今後も充実させ埼玉県アートの簡易ディレクトリーとしても使えるようになるといいですね。

準備中の「アートバンク」では、SMF のアーティストアドバイザーやプロジェクトに密接に関わってくださったアーティストの方々をはじめ、これまでのアート市場やアート座席に出演・出演したアーティスト、ラウンドテーブルにご参加いただき登録を希望された団体・個人などの活動情報を順次リアルタイムに掲載していく予定です。

活動情報の記録・蓄積から連携、発信へ、新たなプロジェクトやコラボレーションの生成の場へと、SMF の次のステップに向けて、ホームページの役割もますます重要なものとなっていきます。SMF の活動やホームページについて、みなさんのご意見やご提言を [SMF.info@artplatform.jp](mailto:SMF.info@artplatform.jp) までとどしどしお寄せください。(M.N.)



SMF 体験レポート

さいとう一が行く!

私は mixi でとても気になっている人がいました。それはアートテラー・とに〜さん。とに〜さんは毎週末、参加者を募って美術館や建築のツアーを行っています。このツアーは大変人気で、いつもキャンセル待ちの人がたくさんいます。また、都内の美術館だけでなく、埼玉県立近代美術館で行われていた「アンドリュウ・ワイエス展-オルソン・ハウスの物語-」にもツアーで訪れていたというので、どのような人なのか、ますます気になり、今回「大東京お笑い建築ツアー 史上最大の建築タウン“表参道” 24 時間スペシャル【朝の特別編】」のツアーに参加してきました。

集合は午前8時。この時間の表参道は昼間の賑やかさとは遠くかけ離れた、不思議な静けさがありました。主催者のアートテラー・とに〜さん、講師の建築家・ペンさん、スタッフさんたち、そしてツアー参加者の皆さんと人数は20人程。表参道をぐるっと周り、表参道ヒルズや Dior をはじめ、会社の社屋、デザイン事務所など、一人ではなかなか行けないような所に行ってきました。とに〜さんは吉本興行に所属していたこともあり、話術がとても巧みでした。解説に専門用語が出てくると、そこにとに〜さんが素早くツッコむ。ここで講師のペンさんがすらすらと答える。このお二方の駆

け引きから目が離せませんでした。

ツアーの参加者の方々は、学生から主婦、デザイナー、第二の人生を楽しむ方まで幅広い年齢層。また今回初参加の方も、常連さんもうらっしゃいました。ある参加者の方にお話を伺ったところ「ネットで募集しているのは少し不安があったけど、とてもおもしろそうなので来ちゃいました。」とのこと。とに〜さんのツアーは本当に魅力的なのです。他の参加者の皆さんもとても楽しんでいらっしゃいました。講師のペンさんの解説を聞き、積極的に質問する方や、メモをとる方、建物の写真を多方向から撮っている方と、知ること・学ぶことに積極

的な方がいっぱいです。

とに〜さんはアートテラーという職業を「一般の方にとって、とっつきづらいイメージのある『美術』を、より身近で、より楽しいものを感じていただけるようなトークをする職業」とおっしゃっています。「美術」をより多くの人に見てもらえる、参加してもらえるようにするために私たちが一步一步、「美術はとっつきにくいもの」というイメージを持っている方へ、歩み寄り大切さを感じたツアーでした。皆さんもとに〜さんのツアーに参加してみませんか?今までと違う「美術」が見つかるかもしれません。(H.S.)

# ネットからはじまるアートのわっ!!



早朝の原宿・表参道



とに〜さん(左)とペンさん



幅広い年齢層の参加者

2010年11月23日、うらわ美術館にて「子どもの眼 大人の眼—つながる心—」が行われました。アーティストの塩崎由美子さんを講師に、世代の異なる参加者が作品を作ってコミュニケーションするワークショップ。各自の撮った写真が素材となります。5歳から63歳までの26名が街へと出かけ、初めてカメラを手にした子どもは、追いかけた猫と同じ目線でシャッターを切りま

## 再発見! 子どもの眼 大人の眼

した。またある子どもは遥か頭上にそびえるビルを撮影。写っていたのは、厚い雲間に一瞬のぞいた目の醒めるような青空でした。一方年長者も負けてはいません。何気ない日常をユニークな視点で切り取り、その構図の巧みさに感心しきり。歳の差2回りの大人同士

で同じ被写体に向ける視点の違いに驚く場面もあったようです。互いのやりとりで普段は見えないものが見えてき参加

者一同、プロアマ、家族や年齢の垣根を越えて刺激を受け合う交流の場となりました。

美術を身近に楽しむ表現活動に優劣はありません。子どもたちの自由な発想は、固定観念に抛らずに新しく物事を見つめる手掛かりになりますし、経験豊かな大人からは、人の心の多様さと思考の深さを教わります。創作体験を通じて大人の眼と子どもの眼が出会うとき、その先のよりよい人間関係や生活に向けての可能性が開けるかもしれません。

こうした多世代交流型のワークショップについて、参加者の好評や実施前後に届いた問い合わせからも、需要の高さと手応えを感じています。今後うらわ美術館のオリジナルプログラムとしての継続を検討しており、お隣の埼玉県立近代美術館も2010年度から、土曜ワークショップの対象年齢を一部広げたところ。美術館を舞台にどんな出会いが広がっていくのか、とても楽しみです。(A.O.)



### 編集者のつぶやき...

開催中の植田正治写真展もおすすめです(H.O.) / 緑の下の力持ち—デザインのちゅう中村Aさん、写真の中村Cさん、映像の佐藤さん、HP担当の木村さん—今年もどうぞよろしく(M.N.) / 気づいたら2010年はもう終わり。さて2011年に向かって歩きはじめますか。前を向いて、一步一步(H.S.) / 【S】新年も【M】みんなで団結【F】フルパワー☆どうぞよろしく(A.O.)